



## 高野山の名僧 うんどう てんがく 雲堂 天岳 (1628~1692)

近世の二本松仏教界に大きな足跡を残した名僧の中で、特に三大徳と称されているのが、珊瑚寺開山の高泉和尚、松岡寺開山の太嶽和尚、そして法力・靈験等の伝説が語られた高野山僧侶で遍照尊寺開山の雲堂和尚です。

寛永5年(1628年)和泉国(現大阪府)に出生。米穀を絶ち、草木の実を常食として一生を終えたことから、木食上人ともいわれました。

高野山興山寺住職のとき、激しい対立争論があり、反対派の策略によって幕府から嫌疑をかけられ、寛文6年(1666年)9月に奥州流罪として二本松藩主・丹羽光重にお預け処分となったのです。

光重公は、城内の本町谷に小庵を建て、丁重に待遇しました。同9年(1669年)に罪が減じられ、藩内における宗教活動の自由が許されると、精力的に庶民と交わり、多くの加持祈禱を施しています。一方、光重公は一寺を献じようと申し入れたものの、なかなか受け入れられず、ようやく建立できたのが根崎に現存する遍照尊寺でした。

延宝3年(1675年)幕府の大赦令により赦免。しかし高野山には戻らず、10年余りも二本松に住じたのです。

二本松滞在中の雲堂にまつわる法力・靈験逸話は数多く伝えられ、特に二本松藩の風土記といえる『相生集』には「雲堂封鬼」「雲堂封蛙」2話が収録されています。

また、旱ばつのため領内の僧や老若男女に名山・社寺に雨乞いさせたもののさっぱり効果がなく、雲堂の法力に期待する声が高まり、光重公は祈禱を命じました。その結果、盆を覆す大雨となり、領民はその靈力に驚嘆したといえます。

法力により諸奇跡を呼び、領民から「生き仏」「今弘法大師」と慕われた雲堂が二本松を去り、高野山に帰山したのは貞享4年(1687年)のことでした。

しかし、再び対立争論に巻き込まれて処罰され、名もない京都の山寺に強制隠居を命じられました。つまり態のいい追放処分でした。雲堂は断食行の無抵抗をもって権勢に抗議し、元禄5年(1692年)4月9日遂に世寿65歳で示寂しました。真言宗究極の秘行である「即身成仏」をもって教に殉じたのです。



二本松ふるさと人物史  
二本松市ウェブサイト

### 二本松警察署からのお知らせ

犯罪発生状況(令和5年1月~7月)

	二本松地区	安達地区	岩代地区	東和地区	不明等	合計	前年対比
侵入盗	1	2				3	2
空き巣	2	3				5	5
出店荒し	6	4(4)				10(4)	2
その他	9(3)	11(1)				20(4)	11
非侵入盗	18(4)	2	1			30(7)	20
車上ねらい	3	8(2)		3		11(2)	11
自転車盗	2	1				3	-1
器物損壊				1		1	1
住居侵入	20(3)	4	1		2	27(3)	12
その他	60(10)	34(7)	11(3)	4	2	111(20)	63
合計	34	20	7		2	63	
前年対比							

※()は7月の発生件数



地域で子供の見守りを!!  
日常生活の中、気軽にできる「ながら見守り」活動の協力をお願いします。

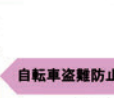


### 街頭犯罪防止!!

カギ掛けの習慣を心がけましょう

空き巣ねらい・忍び込み防止

自動車盗・車上ねらい防止



◇わずかな時間の外出でも玄関や小窓のカギをかける。

◇車を離れるときは貴重品を持ち出し、必ずロックする。



◇自転車には必ずツーロックをする。

POLICEメールふくしま

登録専用アドレス(QRコード、または pmf01@uh28.asp.cuenote.jp) にメールを送信してください。

二本松警察署 電話 23-1212

